

第52回治山研究発表会が 開催されました 森林整備部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が9月25日～26日に東京都代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで各森林管理局、地方公共団体、民間事業者等の参加のもと開催されました。

本発表会では「治山計画、地すべり等の取組」「斜面・溪流対策等の取組」「木材利用、森林造成・整備の取組」「緑化、環境への配慮、事業実施の工夫等の取組」の4つのセッション別に計36の課題が発表されました。

当局からは「木材利用、森林造成・



発表する山梨所の山本野呂川第一治山事業所主任



発表する磐城署の岡川原町治山事業所主任

整備の取組」のセッションで、山梨森林管理事務所野呂川第一治山事業所山本主任と岩崎治山企画主幹による「残存型枠の部材開発における一考察」及び、磐城森林管理署原町治山事業所岡川主任と国土防災技術(株)事業本部防災環境事業部中澤洋次長による「東日本大震災における海岸防災林の被害状況報告(その2)」の2課題が発表されました。

このうち、山本主任の間伐材を利用した残存型枠に関する発表については、従来の2倍横置の間伐材の取付を1倍縦置への変更と新型軽量フレームの開発により施工性を大幅に向上させたことが高く評価され、優秀賞を受賞しました。

また、岡川主任の発表では、東北地方太平洋沖地震及びそれによる津波で被災した磐城森林管理署管内相

馬市松川浦の大洲国有林で実施した残存クロマツの引き倒し試験等の結果をもとに、海岸防災林の復旧にあたって盛土により植栽木の根茎の生育空間を十分に確保することで一定レベルの津波エネルギーの減衰効果が期待できることなどの報告がなされました。

一方、2日目には、治山事業100年を記念したシンポジウムが開催され、当局の川野森林整備部長がパネリストとして参加し、「関東森林管理局における治山事業の取組と課題」と題して、戦後の荒廃山地の復旧の歴史と成果について紹介するとともに、現在の森林資源の充実ににおける流域保全や集中豪雨対策、森林生態系の保全等の今日的な治山行政上の課題について話題提供を行い、今後の治山事業の在り方について活発な議論が行われました。

第32回 木と暮らしのふれあい展 (東京事務所)

10月6日・7日の両日、第32回「木と暮らしのふれあい展」(主催東京都・社団法人東京都木材団体連合会)が木場公園で開催され、東京事務所が出展し国有林のPRに努めました。

この催しは「森を育てたい。だから

ら木を使おう。」をメインテーマに、東京都民に木とふれあえる機会を提供し、暮らしの中での木材利用を推進することを目的としています。

当日は、東京都の各木材団体等が一堂に会し、木工教室等の木とふれあう体験や木製品の展示販売、木造住宅相談、特産物の販売、アトラクション等が行われました。

1日目は台風一過の晴天に恵まりましたが、2日目はあいにく朝から雨にたたられ、午前は来場者が少ない状況でしたが、午後には天気が回復し、来場者がどっと増え、いつもの賑わいを見せました。

東京事務所では、木工品や木酢液等の販売の他、小枝のつくくん、木の実のリース等の森林クラフト体験を行うとともに、小笠原諸島のクイズを出題し世界自然遺産登録のPRを行いました。



賑わう東京事務所テント